

は じ め に

現代社会において自動車や二輪車等は、私たちの生活になくてはならないものとなっていますが、他方で、多発する交通事故が大きな課題となっており、事故の未然防止に向け、学校における交通安全教育は大変重要であります。

本県におきましても、昨年度、児童生徒の交通死亡事故が4件発生したほか、生徒が加害者となる重大事故も1件発生しており、尊い命を守り、被害者にも加害者にもならないよう、交通安全教育の一層の充実が求められています。

交通事故防止に向けては、幼児児童生徒一人ひとりが、「自分の命は自分で守る」という高い安全意識を育み、かけがえのない自他の命を尊重し、正しい交通ルール・マナーの実践に努める必要があります。

このため、現在、交通安全教育については、幼児児童生徒が自らの安全を自ら確保しようとする主体的な態度の育成をめざす教育へと、質的な変換が求められており、具体的な事件事例や危険箇所情報等に基づいた安全指導の徹底とともに、自転車教室や通学路の安全マップづくり等の体験的な学習や、危険予測学習（KYT）を活用し、幼児児童生徒の危険予測・回避能力を育むことが大切であると考えられています。

特に、危険予測学習は、幼児児童生徒が、自他の行動の変化に伴い、身の回りの道路や交通の状況も変化することに関心をもつことで、自ずと危険を予測し、自ら安全に行動する力を育むことができる大変有効な学習方法であります。

つきましては、この度、危険予測学習による自転車交通安全教育教材をまとめましたので、是非、御活用いただき、交通安全教育の一層の充実を図っていただきますとともに、学校安全・学校危機管理の強化に努められ、安心・安全な学校づくりを積極的に推進していただきますようお願いいたします。

平成21年2月

山口県教育委員会教育長 藤井俊彦